

【特集】大らかさ、優しさ育む豊かな自然と学校施設…共立第二

2021/12/28 05:01

共立女子第二中学校高等学校（東京都八王子市）は、今年度募集の中学入試で定員の3倍を上回る志願者を集めた。この人気の背景には、豊かな自然に囲まれた広大なキャンパスと、充実した学校施設があると同校は見ている。四季の変化を身近に感じられる環境で、のびのびと学習やクラブ活動などの課外活動に取り組む中で、生徒は大らかに優しく成長していくという。通学の利便と安全性に対する同校の配慮と併せて生徒たちの姿を紹介する。



「豊かな環境で過ごすことで生徒は自然と大らかに、優しく成長している」と話す浅田教諭

（中略）

自然豊かなキャンパスで体験学習を深める

自然豊かで広大なキャンパスは学習面でも生徒たちの体験の質を深めている。理科の授業では、中高ともキャンパスを散歩しながら自然観察を行う時間を設けている。また、今年度は中庭の一画に、家庭菜園を意味する「ポタジェガーデン」と名付けて、地植えのみでなく、コンテナやプランターを使って植物を育てられる環境を作った。菜園の管理や栽培方法の講習をしている卒業生の農家を講師として、中学生が野菜の種をまき、季節の野菜のほか、ハーブ、花などを栽培する。



理科の授業で、キャンパスを散歩しながら自然観察を行う生徒たち

クラブ活動では「野外研究部」が自然観察や野菜の栽培、中庭のバラの管理を行っている。キャンパス内の自然を生かしたさまざまな活動が魅力で人気も高い。同部顧問で生物担当の松本重樹教諭は校内でホタルを繁殖させ、校内のピオトープでホタルの観賞会を行っていた。また、都心に比べて空気の澄んだ立地を生かし、冬には希望者を対象に校舎の屋上で理科教員が天文教室を開く。

中2の大里さんは、「環境がよいことも、この学校を選んだ理由の一つです。以前は植物にあまり興味がありませんでしたが、自然観察のほか、先生方が学年通信に季節の花について書いてくださるため、初めて知ることも多く、自然に囲まれているよさを感じます」と話す。

高校3年生の笠井瞳さんは、「中庭でお昼を食べたり、毎日変化する景色を眺めて、友達と『今日は快晴だから、山梨の山が見えるね』『今日の月はきれいだね』などと話したりする機会が増え、日々自然を感じています。天文教室では、望遠鏡で星だけでなくスカイツリーまで見えて驚きました」と笑顔を見せた。

浅田教諭は、生徒の様子についてこう話す。「入学式の頃にはしだれ桜、初夏には新緑、秋には紅葉が間近に見られ、鳥や虫の声が聞こえるなど、通学しているだけで季節の変化を感じられます。こうした豊かな環境で過ごすことで、生徒は自然と大らかに、優しく成長しているようです。そのためか、本校にはボランティア活動を行う生徒がたくさんいます。最近はSDGs（持続可能な開発目標）が盛んに取り上げられていますが、本校はMDGs（ミレニアム開発目標）の頃から世界の課題解決につながる活動を意識して行い、今年度も生徒が自発的に古着を集めて、開発途上国の子供にワクチンを送る団体を通して届ける活動などを進めています」

